

＜県研究主題＞

これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 神菌 岳志(相模原地区)

＜研究主題＞

学習した知識・技能を活用し、課題を解決する生徒の育成

— 布を用いた物の製作実習における指導の工夫 —

1 提案内容

家庭内において手縫いによる補修やミシンを使う機会が減り、生徒が技能を習得する家庭環境にない中で、小学校の学びを生かしつつ、中学校段階で基礎的な知識や技能をどのように定着させていけばよいかを考えていた。また、キット教材を説明書通りに作る授業を展開するのではなく、生徒が自分なりの考えをもとに製作を行う学習活動を実施したいと考えた。

そのような状況から、「C衣生活・住生活の自立（3）衣生活、住生活などの生活の工夫（ア）布を用いた物の製作を通して生活を豊かにするための工夫」の指導について検討し、裁縫に関わる基礎技能について、効果的な教材を用いたり、わかりやすい指導方法を実践していくことと、身につけた知識・技能をもとに、布を用いた物の製作を通して、生活を工夫し創造する能力の定着を図ることを目指して研究をすすめた。

（1） 主題への迫り方（研究の方法と内容）

① 題材 「生活を豊かにする物の製作」

② 題材設定の理由

学校生活に必要な布を用いた物の製作を通して、生徒自らが日常生活をより豊かにしようとする力を育みたいと考えた。そのために、予備教材を用いたり、視覚教材を活用したりすることで、基礎技能の定着を図り、生徒の目標達成に生かせるようにした。また、生徒に適した課題を設定し、製作計画や製作方法について生徒自らが考え、自分なりの工夫ができるようにした。

（2） 研究の成果と課題

① 研究の成果

ア 生徒の視点に立って視覚教材や教室環境の手立てを考え、指導方法を工夫し実践したことで、生徒の理解や技能の習得により効果がみられた。

イ わかりやすく習得しやすい授業展開になったことで、支援が多く必要な生徒にあてる時間を増やすことができた。

ウ 基礎的な知識・技能を身につけることができたことで、自らの生活をよりよくするための製作物の製作に向けて、目的を持って計画し、実習することができた。

エ 生徒の実生活にそった共通の課題を提示し、各自で課題を解決する学習活動を行うことにより、それぞれの思いの形を作る教材の授業展開が行なわれ、すすんで学習に取り組む生徒が増えた。

② 研究の課題

ア 高機能で使いやすい既製品を実生活で購入し使っているため、自分の技能に伴わない計画を立てる生徒がいた。

イ 立体的な空間把握に苦手意識がある生徒は、持ち手ひもの縫いつけに難しさがあった。

ウ 生徒の創造力を最大限伸ばし、育むためには、更なる基礎・基本の定着に向けた指導方法の工夫が必要である。

2 協議内容

(1) 自らの課題を解決する生徒の育成について

① 自ら課題を解決していく前提として、技術をしっかり身に付けていくことが大切である。

② 学校給食の献立を立てるなど、生徒の実生活の中からテーマを設定して、お弁当コンクール等を活用したりする。

③ 授業のはじめに学ぶことを明確にして、振り返りシートに友だちのアドバイスをもらおうと次の課題になるのではないか。

(2) 連続性のある「評価・活用」の題材案について

① 手づくりと既製品との比較は、話し合い活動が行いやすい。

② 「D 身近な消費生活と環境」の分野を他の分野の学習と関わらせて取り入れていく。

③ キット教材から個々の課題へとつなげる例として、更に使いやすくするためにはどうすればよいか、使っていく中でいたんだところをどのように補修したらよいかを考えさせること等があげられる。

3 まとめ

それぞれの地区において、小中の学びのつながりを大切にしている。そのため、次の3つの学習の工夫を図る必要があると考えている。

① 基礎・基本を明確にした学習

② 問題解決的な学習

③ 3年間を見通した指導計画の作成

①については、生徒の実態を的確に把握したうえで、適切な指導につなげていくことが大切である。②については、生徒が自ら課題を見だし、解決に向けての計画を立て、実際の取組へとつながるようなワークシートの作成や、生徒がより自分の思いを形にしやすくするための手立ての工夫、安全で製作を進めやすい環境づくり等が必要となる。③に関しては、小学校もさまざまな事情を抱えた中で、どのように小学校での学びを深め、定着させていくかが課題である。

今後、生徒がより主体的に取り組む問題解決的な学習を進めるために、製作物の形を考える場面で生徒同士の対話活動を取り入れ、完成した作品をよりよくするためにはどうすればよいかを考える場面を設定すること等、指導を工夫し、学びを深めていきたい。

<研究主題>

問題解決的な学習と言語活動の充実を目指した学習活動の工夫

— 「生活を工夫し創造する能力」を育成する活動の充実を目指して—

1 提案内容

問題解決能力となる思考力・判断力・表現力を育むために、技術を適切に評価し活用する能力を育てることが重要であると考えた。さらに、「評価・活用」を単独で扱うのではなく、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して身に付けた基礎的な知識・技能と、連続的に関連づけた「評価・活用」の学習活動の工夫が、生徒の思考力・判断力・表現力などを育むために重要であると考え、テーマを設定した。

(1) 研究の方法

第2学年「エネルギー変換を利用したものづくりを通して、身の回りにあるエネルギー変換の活用について考えよう」を題材とした。

- ① 「評価・活用」の学習活動ができる実習課題・教材を検討する。
- ② 製作品から「評価・活用」への連続性を図る。
- ③ 製作品の機能から、「評価・活用」を考えるための条件設定を工夫する。
- ④ ICT機器を活用して「評価・活用」の学習の活発化を図る。

(2) 研究の工夫

生活上の課題について、自らの考えや他者の考えを共有する場面を設定して、「問題解決的な学習」や「言語活動の充実」が図れるようワークシートや思考、判断のための材料としての資料を工夫した。

(3) 実践内容

3つの発電方式を比較・検討することができること等から「エコキューブラジオ2」(山崎教育システム株式会社)を教材とした。授業では、エコキューブラジオの3つの発電方式のプラス面・マイナス面を考えさせた後、「発電方式を一つ選ぶとしたら、どの発電方式が一番良いか」について3～4人グループで話し合いをさせた。このとき、環境、社会、経済的側面から比較できるように支援した。

話し合い活動及びその発表では、デジタルペンOpenNOTE (DNP 大日本印刷株式会社)を活用し、紙に記入した内容をリアルタイムに集約し「生徒の考える過程」の可視化を行った。このICT機器を使うことで、時間の有効活用ができ、意図的な発問をすることができた。また、データとして残るので授業後に教師の評価資料とすることができた。

(4) 研究成果

- ① 連続性を持たせることで、「評価・活用」の学習活動が活発になり、思考力・判断力・表現力等を育成することができた。
- ② 生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして課題を解決することができる力を身に付けることができた。
- ③ 生活を営む上で生じる課題に対して、社会・環境・経済とのかかわりについて考え、理解を深めることができた。

- ④ ICT機器を活用することで、時間数の限られた中で、生徒の「生活を工夫し創造する能力」を育むための学習活動を実践できた。

(5) 今後の課題

- ① 限られた授業時数の中で「生活を工夫し創造する能力」を育む活動をどのように取り入れていくか。
- ② 「問題解決的な学習」と「言語活動」の充実のために、連続的な学習活動を行っていく必要がある。
- ③ ワークシートや資料は生徒の実態に応じて工夫する必要がある。
- ④ 場面に応じたICT機器の活用を検討する必要がある。

2 協議内容

全体協議の柱 「生活を工夫し創造する能力」を育成する活動の充実について

(1) 協議1 自らの課題を解決する生徒の育成について

- ① 課題解決学習をするには基礎・基本をしっかり身に付けさせたい。自分の生活を振り返らせ、社会などにも視野を広げることが大切である。
- ② グループ活動やペア学習により、生活を工夫し創造する能力を育成できるだろう。それには、課題の投げかけや題材の工夫が必要である。
- ③ 課題を見つけることはかなり難しいことである。失敗の中から見つけることができるが、失敗をさせたくない題材もある。良い失敗経験ができる題材の見極めが必要である。

(2) 協議2 連続性のある「評価・活用」の題材案について

- ① 「評価・活用」をする授業設定をしっかり計画することが大切である。3年間で繰り返し経験させたい。
- ② ワークシートには、長い文章ではなく短い文章で見やすく書くよう指導すると生徒同士も比較しやすくなり、教師の評価もしやすくなる。
- ③ 日頃の授業の中に「評価・活用」の種をまく工夫をしていきたい。

3 まとめ

連続性のある「評価・活用」はとても大切なことである。「評価・活用」を繰り返すことで、次の課題の解決を学ばせることができる。「評価・活用」の切り口は生活のいろいろなところにある。キーワードは「ガバナンス」と「イノベーション」である。ICT機器の活用は、学力や学習意欲の向上や主体的な学びにつながり有効である。ICT機器を生徒が活用する環境を整えるとともに、新しい考え方に基づいて授業を改善していきたい。今教えている内容が2030年に役立つかを含めて、「評価・活用」を他の内容にひろげてほしい。